

西成連区地域づくり協議会の経過を報告します

合併4年目を迎えた20年4月から、尾西・木曾川町地区も連区制が導入されました。尾西6連区と木曾川町連区が加わり、本市は23の連区で構成されることになりました。

新しいコミュニケーション制度について20年3月号で説明しましたが、地域組織は大きな役割を担っています。今後は、行政の補完組織としての連区制を土台として、新しい地域組織へと発展させる仕組み、「地域づくり協議会」制度を、順次、各連区に拡大していきたいと考えています。モデル地区となった西成連区の取り組みを報告しますので、今後の参考にしたいと考えています。

19年度は準備期間として、町会長連区代表者、民生児童委員協議会の正副会長、公民館長など8人の方が他市の状況を勉強するとともに、20回を超える協議を重ね、意思統一が図られました。住民の方からも広くご参加いただきましたし、参加して「エリアミーティング」が行われました。9月には参画を希望する住民や諸団体の代表者とのミーティングで、地域活動に対する意見を聞きました。また今後の計画作りの参考にするため、連区の事業に対する満足度や重要度、西成の地域性に関するアンケート調査が、10月に行われました。これらを通して、西成連区が今後目

指すべき姿を3つのキーワード、すなわち「安心・安全」「連携」「自立」の3つに絞り込みました。このキーワードの具体化に向け、「地域福祉」「生活・環境・衛生」「交通・防犯・防災」「健全育成」「地域振興・保全」「広報」の6つの部会で活動を進めていくことになりました。これらの部会は住民や40を超える団体からの参加者で構成され、それぞれ10〜20人ほどになりました。専門的な知識や経験を生かし、西成らしい地域づくりに向けた事業が議論される場となりました。

20年5月2日、正式に「西成連区地域づくり協議会」が設立されました。地域づくり協議会の設立により、連区に交付している各種事業の補助金（公民館・交通安全会・防犯協会・高齢者の生きがいと健康づくり推進協議会・資源回収推進協議会・学校外活動推進協議会など）に加え、敬老会や見守りネットワークの委託事業費と特別交付金が合算されて、地域づくり協議会に一括交付されます。その使途は地域づくり協議会の判断で、地域の実情に合わせて自由に決めることができます。20年度の交付金は627万円余りとなり、これに社会福祉協議会からの補助金などを加え、西成連区は941万円余りの予算規模となりました。

20年度は活動目標を「連」と定め、延べ28回に及ぶ部会が開催されました。

また部会長と役員との緊密な意見交換や、部会員全員を対象としたシンポジウムの開催、さらには毎月、協議会だよりが発行され、各部会で議論された内容をすべての住民が共有することに努めてきました。

これまで各部会で検討された内容の一部をご紹介します。

▽敬老会行事の内容の見直し ▽見守りネットワークの強化 ▽ごみゼロ運動の一斉実施 ▽校下の垣根を越えた教養講座の実施 ▽見守り隊の統一的な活動 ▽防災意識の高揚 ▽伝統行事の掘り起こしによる地域の活性化 ▽ホームページ「にしなり」の開設

2月に開催されたシンポジウム「あすの西成を考えよう」で、「これまでのタテ割り組織にヨコのつながりが生まれ、気兼ねなく話しやすくなった」という発言がありました。この事業の本質がズバリと表現され、たいへん印象に残っています。



西成連区地域づくり協議会の総会(4月30日)